

TSIホールディングス

今期営業利益最高へ

製販計画見直しなどで

TSIホールディングスの23年2月期連結決算の売上高は1544億5000万円と修正計画値に対しても0.3%上回って善地した。前期比では10%増。営業利益は、本社移転に伴う一過性の費用計上の影響で47.5%減の23億2000万円。計画に対しては29.4%増と、収益性は大幅に改善したとみている。国内の実店舗と海外事業が年間を通じて堅調だった。経常利益は38億5000万円、純利益は30億6000万円。今期の営業利益は過去最高となる47億円を目指す計画だ。(永松浩介)

実店舗の売上高は前期比16.1%増と伸長した。大手百貨店の復調にインバウンド(訪日外国人)需要の回復が後押しした。「今後は拡大フェーズとなる」(下地毅社長)と新たな出店をにらむ。

百貨店販路は42%伸びた。海

外事業は16.3%増。一方、E Cは上期の苦戦が響き0.4%割り込んだ。下期はソーシャルメディアを使った販促策やコンテンツの拡充などテコ入れし、2%増。第4四半期は7.9%増と「V字回復した」(同)が

わずかに実績には届かなかった。ブランド別では売り上げトップ10のうち、6ブランドが2ケタの成長。約60あるブランドのうち、上位10ブランドの売上高は907億円で15.6%伸びはた。中でも、ストリートの「ハフ」、百貨店ブランドの「ヒュ

ーマンウーマン」が高成長を見せた。

同社は事業領域を大きく四つに分けて運営しているが、「ウエルネス&ライフスタイル」は16.5%増の475億円、「ストリート&カルチャー」4.5%増の586億円、「ファッションキャピタル」15.1%増の340億円、「デジタルシエネレーション」6%増の126億円だった。

ウエルネスは主力ブランドの「パーリーゲイツ」をフィーチャーしたテレビCMが寄与し、ファッションキャピタルは「ル・フィル」が92%増と大きく伸ばした。

24年2月期の通期計画の売上高は4.9%増の1620億円、営業利益は101.8%増の47億円。営業利益の大幅改善は、前期に受給した雇用調整助成金や事務所賃料の減少と、事業成長や製販計画の見直しによる粗利の改善を見込んだもの。